

会 議 要 旨

1 開 会 平成 30 年 1 月 10 日(水)午後 3 時 00 分 (403 会議室)

2 平成 29 年 12 月定例教育委員会会議録の承認

事前に配布されている会議録について、異議がないか確認のうえ承認。

3 委員及び教育長の報告

(各課長等) ○29 報告第 25 号 平成 29 年西之表市一般会計補正予算(第 6 号)に係る意見について
(概要報告)

○29 報告第 26 号 平成 29 年第 4 回西之表市議会定例会について
(概要報告)

(委員) 和田議員の質問(子どもの貧困について)に対して、教育相談とかアンケートとかで、教育委員会として把握している貧困家庭件数があるのか。

(学校教育課長) 具体的な数字に関わる部分の調査には至っていない。

(教育長) 要保護、準要保護の数が一応の目安。

(参事) 生活保護受給者、準要保護として各学校から上がってくる人数については把握している。

4 議事

なし

5 委員から出された動議討論等

なし

6 行事实施状況及び行事予定

(各課長等) 1 2 月の行事实施状況及びについて説明。

(教育長) 学校教育課の「授業サポート事業」について説明を。

(指導係長) 県教育委員会から指導主事に来ていただき、種子島中学校の授業を参観してもらい、授業に対する指導、助言を受ける。年 4 回実施。

(教育長) 1 2 日、1 3 日の行事について説明を。

(指導係長) 「英語教育推進リーダースキルアッププロジェクト」「地区コアティーチャーネットワークプロジェクト」は、県で行われているもので、来年度からの外国語活動を見通し、各地域の核となる教員のスキルアップを目的に行うものである。各小学校から 1 名、中学校英語担当教員は全て参加。

(委員) 「授業サポート事業」の中で、教科は何が行われているのか。

(指導係長) 今年度は数学を見てもらう。

(委員) 受ける先生は毎回同じなのか。

(指導係長) 替わっています。

(委員) 学校ダンス発表会が、1 5 日に実施されているが、種子島からの参加はあったか。

(学校教育課長) 出ていません。

(委員) 社会教育課の 1 3 日のスポーツ推進委員会で、市内一周駅伝の反省が出たとのことだが、どういふ点が出されたか。

(社会教育課長) 今回、榕城上方と下西が同タイムで優勝。今回については両チーム優勝としたが、次回からは、同タイムの場合世帯数の少ない地区を上位とする。また、コースについて市役所がゴールとなるが、旧多愛病院前の交差点について、小学生の区間となっており危険と思われるため、コース又は区間の変更について次年度で協議することとしている。

(社会体育係長) 市民体育祭で、総点数が同じ場合は世帯数の少ない地区を上位とする規定があり、同じような形をとった。コース区間についても今後のスポーツ推進の中で協議していく。

(委員) 鉄砲館に勤務される方は、種子島の歴史を知ってほしい。

(社会教育課長) 学習の機会を得られるようにしたい。

(委員) 22日の市政施行60周年記念事業第2回実行委員会では、何時頃、どのような内容で実施する案等が出ているのか。

(社会教育課長) 市全体での委員会であり、各課でイベントを持っている場合は、60周年の冠をつける等で実施。その中で社会教育課では、いけばな展を計画している。時期は11月23日から11月25日に、市民体育館での実施を予定している。また、11月25日に郷土芸能大会、ふるさとフェスタ(仮称)を活花展と併せて実施予定。記念式典は9月30日の予定。詳しい情報について、随時本会等でお知らせしたい。

(委員) そのための予算はどの程度か。

(社会教育課長) 各課で割り振っている。

(委員) 当初予算にはないのか。

(社会教育課長) 当初で計上している。現在調整中。

(各課長等) 1月、2月の行事予定について説明。

7 当面する教育行政の諸課題について

・西之表市教育振興基本計画(素案)について

(教育長) 12月の18日に市議会全員協議会にて報告している。現在はパブリックコメントを行っている途中。最終的には2月の定例教育委員会で決定していただく。その前でお気づきの点があればご意見をいただきたい。

(学校教育課長) 市役所全体で足並みをそろえる必要があるが、平成31年4月30日で平成という元号が終わるため、グラフ等は西暦表記としたい。

(委員) 構造図の「ふるさとが育む ふるさとで育む」という表現について、「が」と「ど」にどのような意図があるのか。

(学校教育課長) 「ひとり立ちの教育」の中で「郷土」がキーワードである。その中で微妙なニュアンスとは思うが、「ふるさと」が西之表市全体の教育を支えて、子供たちを育てていくんだという部分と、「ふるさとの中で」子供たちが西之表市にいる間は、どこに行ってもひとり立ちしていけるような、自立していけるような教育を身につけさせたい。そういうような思いでこの言葉を強調したところである。

(委員) 「ひとりだちの教育」の中にある「波濤を越え〜」は「ふるさとで育む」。その次の「郷土振興に〜」は郷土で力をつけ、ふるさと興しをする。「ふるさとを育む」とした方が、「ひとりだちの教育」が通るのではないかと感じるが、どうか。すなわち故郷で生きる力をつけ、社会に出ていく。いつかはまた故郷を興す原動力たりうる力。先に「で」を持ってきて、後で「を」を持ってくる。「ふるさとで育む ふるさとを育む」という形はどうだろうかと感じた。

「ひとりだちの教育」が順番に謳っていることを考えると、力をつけて大きくなって成長して、故郷を興す原動力たりうる人間を創っていく。という風にして結び付けていった方が筋

が通るのではないかなと思った。

(学校教育課長) ありがとうございます。貴重なご意見として検討させていただきます。

(委員) この中に、「ふるさとが」子供たちを育てて、郷土教育の充実をするんだということを書いてあるということだが、この中でそれが入っているのかなと思ったんですけど。

(学校教育課長) ありがとうございます。検討させていただきます。

(委員) それから22ページのV番、「社会教育の推進と文化財や伝統文化等の保護・活用」の中に「全ての保護者が自信を持ち～」となっていますが、ここの文面から見たときに、学校教育を充実するために、家庭、学校、地域、企業の連携、次のページは読書活動を謳っているが、社会教育全般について述べて、幼児から高齢者まで、すなわち生涯にわたる学習、「生涯学習を今後どのような形で進めていくのか」と謳った方が良いのではないかと。学校教育を充実させるための家庭教育の充実を謳っているような感じがする。今後4年間で取り組む施策の概要ということで、V番目に「社会教育の～」となっているが、生涯学習の観点を謳った方が良いのでは。

(社会教育係長) 23ページの6行目から、「1生涯学習の充実」という形で、小さい項目では入れているが、そうではなくて、前文で生涯学習を謳う必要があるということですね。

(委員) 市民全体の教育を考えたところの、教育を謳うべきではないか。その中に学校教育とか幼児教育とかが入ってくる。

(教育長) 22ページの最後の行に、「地域ぐるみで学校を支援する～」とあるので、社会教育が学校教育のためにあるというような印象になっているんじゃないかというご指摘ですね。

(委員) 20ページの「3健康教育の充実」の中で、「う歯治療率の向上～」とあるが、文科省によると全国的には肥満、う歯は減少し、視力の低下が言われているが、そのことは書かなくてもよいのか。各学校ではどうか。

(学校教育課長) 資料は手元にないが、スマホ、パソコン等の影響を受けている可能性が高いと思います。

(委員) 15ページの「3理数教育・外国語教育の充実」の中で、(2)の4番目に英語検定等への支援について書いてあるが、29年度教育行政要覧では英語の暗唱大会をされている。

(学校教育課長) 英語暗唱大会は市独自の事業ではなく、種子島全体の事業。

(委員) だから入れてないのか。

(学校教育課長) 種子島中学校から代表者が大会に参加している。

(委員) 種子中主催でも学年ごとにやってほしい。また、少年の主張が無くなったが復活させてほしい。

(委員) 13ページ、「第3章V」で「社会教育の推進と～伝統文化等の保護・活用」とし、その下に記載の「西之表市第6次～」(3)の三つ目の○施策17で「芸術文化・～」とあるが、Vに「芸術」が抜けている。また、22ページVでは「社会教育の～伝統文化等の～」とあげながら、「2文化芸術活動～」としている。「伝統文化」ではなく「芸術文化」と思う。

(社会教育課長) 現在社会教育係の中で、芸術文化の仕事を行っているところから、社会教育の中に入れていく。今までは文化の方に芸術文化も入っていたが、それを社会教育へ移管しているためこのように作っている。

～ 中略 ～

(委員) 18ページの「3人権教育の充実」(2)○二番目「～地域の人権意識～」と書いてあるが、具体的にどうしているのか。

(学校教育課長) 現段階で具体的なものは無いが、教育委員会も情報発信の部分も開発したい。

(教育長) 地域の中に、我々の心であるとか、種子島の助け合いの精神であるとか、そういったものをもう一度提案する形でやっていくことになる。家庭の人権意識を高揚する中で地域まで広がっていけばよいと思う。

(委員) 視力について、大阪体育大学の先生が視力の低下も運動能力の低下の一つであるとの研究をしていることを聞いている。また、人口減少の中で地域にいろんなものを求める時代になっているが、行事が多すぎて地域の人たちが疲れている状況。市役所でもうまく整理、調整してやっていった方が良い。

(委員) 24ページの「VI社会体育の推進」の「7生涯スポーツの推進」(1)市民誰もが～実現を図ります。」とあり、難しいこととは思いますが、やはり地域住民、市民がどんなことを望んでいるかの実態調査が必要と思うが、どのように考えるか。

(社会教育課長) 市民一人一人にアンケートを取るのには難しいが、各地域のスポーツ推進員が地域の意見も聞いており、また自分たちも地域に入り意見を聞いていきたい。できる範囲で行政、地域と手をつないでやっていきたい。

(委員) 既存の組織とか、アンケートにより市民のニーズ、負託に答えていくことが大事。

(教育長) ひとつひとつの競技とかに対して、こまめにアンケートは取っている。ただ、市民全体のものもできればいい。

(社会教育係長) 併せて、スポーツ施設が老朽化しており、今後の施設更新もかねて計画的に進めながら、スポーツ推進員と連携を取りながら実施していきたい。

(委員) 要望を聞きながら予算の中で何ができるか考えていくべき。

「第4章計画の実現に向けて」の「V計画の進捗状況～」で、「実施した施策について～進行管理を行います。」と謳ってあるが、具体的にさし当りどんなことを考えているか。

(学校教育課長) 基本計画については、市の第6次長期振興計画と違ったものにならないように作っている。長振は年度ごとに振り返りと見直しをするシステムになっているので、それに合わせて教育振興基本計画も生活指標等を併せている。推移をみて修正すべきは修正するという流れになるかと思う。ただ教育振興計画の方が詳細にわたっているので、第6次長振のみの振り返りにならないように気を付けなければならないと思っている。

(委員) 反省したのをチェックをして改善利用していく。それはいつどんな形で。

(学校教育課長) 第6次長振は年度末に市でとりまとめ振り返りを行う。

(教育長) 基本的には、外部評価委員会を入れた振り返りシートによる振り返りが基本となる。ただ振り返りシートが分かりづらいところがあり、改善するところが明確に出るような様式に作り変えるように言っている。

(委員) ひとり立ちの教育について、巣立ってはいくが、どのように進学就職し、どのような生活をしているか。そのチェックがあって子供の課題がわかり、教育方針が決まっていくのではないか。たとえば県下にも離島はたくさんあり、ほとんど島から出ていく。追跡調査をやっていない。全国に先駆けて、島から出た子供たちはどうなっているか、成人式、同窓会、還暦会、県人会、職場等から聞き取る等どうか。これまでひとり立ちの教育で焦点化したものは無いのではないか。明確化すれば先生方も理解努力できる。島外に出た子供たちがどのように育っているか、教育する側はフィードバックが必要と思う。このことについてどのように考えるか。

(教育長) どれも自分たちの教育の成果はどうか、高校で3年間教育し、その後どうなっているのか、追跡調査したらどうかという意見は出る。しかし逆の立場になれば大きな問題になる。やれば効率的になるかもしれないが、デメリットもあり躊躇される。

(委員) 個人を追跡する等は抜きにして、どういった問題があり、どういったところに力をつけるべきなのか、課題を見出していく必要がある。個人の人権を侵害するようなことはしなくても、それなりの範囲内で実施し、職場社会が求めるものに対してどうあるべきかが「ひとり立ちの教育」である。

(教育長) 問題は把握の方法である。中学校3年生までにひとりだちの地位をどこまで高めるか、体を

どこまでたくましくするのか、どこまで豊かな心にするのか、そこをしっかりと目標に置いて鍛えていかないと「ひとりだちの教育」はできない。

(委員) 先生たちがどのように生きる力をつけるのに頑張っていくのか、何をすべきなのかははっきりしていない。

(教育長) デメリットをカバーする形で、純粹に我々のやっている教育にフィードバックできるような形の追跡が、どういう方法でできるかということ。できるだけふるさとと繋がりを持ってもらって、帰ってきてもらって、自分たちが教育を受けたときにどうだったのか、そして今社会に出てみて、あの頃こうしておけばよかった、こういうことを教えてもらえばもっと良かったとか、を話してもらおうとかしてもらい、我々の教育を見返していくしかないのかなという気がする。

8 その他

(学校教育課長) 12月末現在の不登校等の状況について報告。

(指導係長) 詳細報告。

— 個別のケースについて意見交換。 —

9 閉会 午後5時00分